

3 放流用人工種苗の保菌検査

石川 徹・中城 岳

(1) 目的

アユの放流用人工種苗には、天然アユ資源に大きなダメージを与える疾病の原因菌を保菌していないことが求められる。そこで、県産人工種苗「土佐のあゆ」の安全性を確保するため、冷水病及びエドワジエラ・イクタルリ感染症の原因菌の保菌検査を実施した。

(2) 材料と方法

2021年放流分の人工種苗（放流時期：2021年3月から5月）の全生産群13池（分槽先の池は同系統群として除く）について、冷水病及びエドワジエラ・イクタルリ感染症の原因菌の保菌検査を実施した。

1池あたり60尾を供試魚として無作為抽出し、10尾ずつを1検査ロット（以下「ロット」という。）として1池あたり6ロット、合計13池78ロットの検査を行った。検査手法は「アユ疾病に関する防疫指針（アユ疾病対策協議会，平成23年12月）」に従った。

(3) 結果と考察

保菌検査を実施した13池78ロットのいずれからとも、冷水病菌及びエドワジエラ・イクタルリ感染症の原因菌は検出されなかった。

文献

アユ疾病に関する防疫指針．アユ疾病対策協議会 2011
魚病診断マニュアル．養殖研究所魚病診断・研修センター 2008